

南海トラフ地震への備え

■南海トラフ地震が及ぼす甚大な被害

南海トラフ地震が発生すると、高知県のほぼ全域が震度6弱以上の強い揺れに襲われ、1m以上の津波が最短3分で到達します。特に、黒潮町と土佐清水市では、全国最大となる34mの津波の襲来が想定されています。

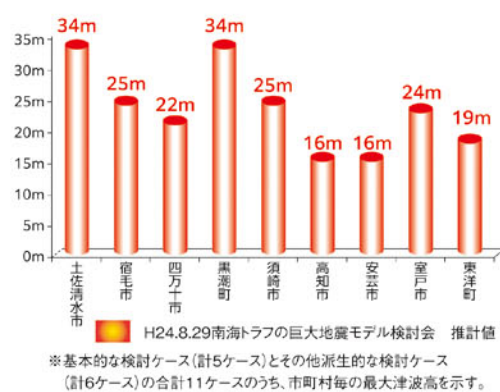
●津波により唯一の幹線道路である国道が寸断

県東西を結ぶ幹線道路は、海岸線に沿って走る国道55号、56号しかありません。代替道路となる高規格道路には未連結区間（ミッシングリンク）が残るため、津波によって、**唯一の国道が寸断されると地域全体が孤立**してしまいます。

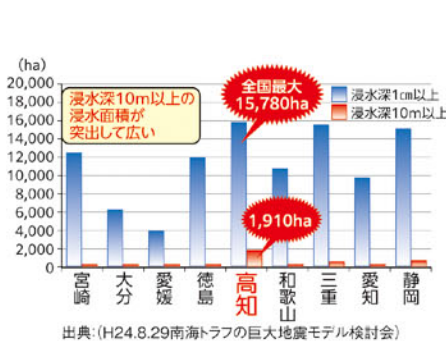


●大津波が各地に襲来

○最大津波高



○浸水面積



■具体的な取り組み

南海トラフ地震の強い揺れによる被害を軽減する対策や発災後の緊急輸送等を確保する取り組みを一体的に推進しています。

●大規模災害時の道路ネットワークを確保

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用して、緊急輸送道路等の整備を重点的に進めています。

◆橋梁の耐震補強

南海トラフ地震の強い揺れに対しても、橋梁の損傷を限定的なものにとどめ、道路ネットワークの機能を確保するよう、緊急輸送道路等における橋梁の耐震補強を重点的に実施しています。



国道194号 根来1号橋(いの町)

◆法面の防災対策

山間部の道路が多い高知県では、南海トラフ地震の強い揺れによる道路路面からの落石・崩壊を防止し、安全な通行を確保するため、法面の防災対策を推進しています。



国道493号(安芸郡北川村)

●「道の駅」の防災施設整備

東日本大震災や平成30年7月豪雨では、「道の駅」は、救援物資の搬入基地、駐車場、被災者への情報提供の場として利用されるなど、防災拠点として復旧活動に大きく貢献しました。高知県でも、南海トラフ地震などの大規模災害に備えて、「道の駅」の防災施設整備を順次進めていきます。

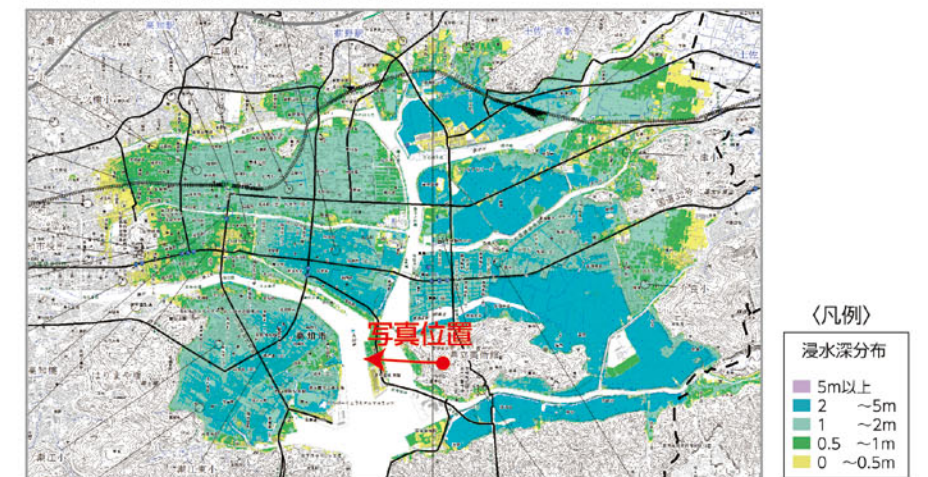
●長期浸水により都市機能が麻痺

地震発生とともに県都高知市では、2mの地盤沈下が発生し、市街地全域が2,800haにわたって水没し、約13万人が避難を余儀なくされます。

長期浸水区域の早期解消に向け、関係機関と連携して止水・排水対策等の検討を進めています。



高知市中心部付近 長期浸水予想図



H25.5.15【高知県版】南海トラフ巨大地震による被害想定 被害想定計算結果(図面集)

●高知県道路啓開計画

南海トラフ地震が発生すると、激しい揺れや津波により、県内各地で甚大な被害が想定されており、道路では、土砂崩れや落橋、がれきの堆積などにより、多くの箇所での通行ができなくなると想定されています。

そのため、高知県では、南海トラフ地震発生直後から病院への負傷者の搬送や支援物資の受入れなどを円滑に行えるよう、優先して通行を確保すべき防災拠点、道路啓開を行う建設業者、手順を定めた「高知県道路啓開計画」を策定し、必要に応じて見直しを行っています。



▲道路啓開ルートの選定方法



▲通行の妨げとなる土砂の撤去



▲仮設道路の設置

高知県道路啓開計画パンフレットはこちら



●四国広域道路啓開計画

南海トラフ地震発生後に、県外からの応援部隊を受け入れるための広域的な道路啓開を速やかに実施するため、四国4県の道路管理者と関係機関で構成される「四国道路啓開等協議会」において、「四国広域道路啓開計画」を策定しました。

計画では、「瀬戸内側から被害が甚大な太平洋側へアクセス可能となるよう、優先的に啓開するルート(進出ルート)を設定し、扇状に進行する作戦(「四国おうぎ作戦」)で道路啓開を実施します。



<四国道路啓開等協議会 構成員>

- 四国地方整備局、陸上自衛隊、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、各県警、全国消防庁会四国支部、西日本高速道路(株)、各県建設業協会、(一社)日本自動車道連盟四国支部、(株)NTTドコモ四国支社等